

令和5年度 半田市総合計画市民評価委員会 議事録

開催日時	令和6年1月29日(月)	15時30分～17時00分
開催場所	半田市役所4階 庁議室	
会議次第	<p>1. あいさつ</p> <p>2. 議題</p> <p>(1) 令和5年度半田市総合計画市民評価報告書について</p> <p>3. 連絡事項</p> <p>(1) 来年度の年間スケジュールについて(資料2)</p> <p>(2) 令和5年度市民評価報告書における提言への対応について</p> <p>4. 市民評価報告書の受け渡し、市長・副市長との懇談会</p>	
出席委員	<p>(委員長) 千頭、(副委員長) 鈴木</p> <p>(委員) 沢田(勉)、小柳、桑山、曾根、榊原、杉本、岩浪、伊藤、 沢田(貢) ※敬称略</p>	
市職員	<p>市長、副市長、企画部長、企画課長、竹之越、倉野</p> <p>※市長、副市長は懇談会から参加</p>	
議事概要		
1. あいさつ	(企画部長) あいさつ	
2. 議題	<p>(事務局)</p> <p>・資料に沿って、前回会議(12月19日)の意見を踏まえた修正点を説明</p> <p>(委員)</p> <p>・15ページの「4-2 都市空間」の「改善が必要な部分」について、3点も挙げられているにも関わらず庁内評価Cと市民評価Aとで2段階も差があるのは違和感がないか。</p> <p>(副委員長)</p> <p>・A評価になった理由として大きく2点あり、すぐに改善することが難しく成果指標に表れづらい点と、将来に向けて様々な取組ができている点がある。改善点が多いからといって市民評価を低くするものではない。</p> <p>(委員長)</p> <p>・では、このあとの市長への報告時には、その点も一緒に伝えることとする。</p> <p>(委員長)</p> <p>・令和5年度半田市総合計画市民評価報告書として決定してよろしいか。</p>	

	<p>(全員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異議なし。
3. 連絡事項	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡事項を報告
4. 懇談会	<p>—— 委員長から市長へ令和 5 度半田市総合計画市民評価の報告 ——</p> <p>(委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この 1 年、議論を重ねてきた。第 7 次総合計画として 2 回目の評価結果は 4 つとも A 評価としたが、改善点も指摘している。個々の成果指標の達成度が低いことと、目標達成に向け行政が頑張っていることは必ずしも一致しない。庁内評価より市民評価を高くした場合でも、改善が必要な点は挙げている。 評価結果だけではなく、議論の過程やその中で出た我々や各課長の意見が大切であるため、そういった点も含め庁内で展開し、各課でしっかり考えていただければと思う。 ・総括の中身について、わかりやすく具体的に記載している。例えば「共生社会」では、行政が取り組んでいる様々な努力が必ずしも市民全体に伝わらないことも多くあるという意見があった。様々な事業で携わっている我々でさえ担当課から直接説明を聞いて初めて知る取組も多く、市民全体へ届けるのはさらに難しいと思う。市民へ行政が何を目指し、どういった取組をしているのか、丁寧に伝える努力をしてほしい。 ・「地域福祉」では、福祉関連業務は多岐に渡り、全体像が市民からはわかりづらいという意見や、就労支援を所管する産業課とも連携が必要という意見があった。 ・最後に、こうした大きな計画に一步先を見据えたチャレンジ項目を明記することはとても勇気があることと思う。だからこそ、チャレンジ 2030 として計画に掲載し、さらには毎年度進捗管理をしていることはとても高く評価している。チャレンジ 2030 含め、この先進的な市民評価制度が今後とも発展していくことを期待する。 <p>(副委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「都市空間」については、すぐに成果がでない分野ではあるものの、将来を見据えた様々な取組ができていることを踏まえ A 評価とした。 <p>(委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我々の評価への対応を各課に照会し、来年度また我々へフィードバックされるが、こうした市民委員と庁内職員のやりとりが大事である。市長も、我々の思いが職員に伝わるよう協力いただきたい。

—— 写真撮影 ——

—— 懇談会開始 ——

(委員)

- ・行政にはこれまでも様々な場面で関わっているが、総合計画の冊子自体、委員になってから初めてしっかり読んだ。当事者になってから知ろうという気持ちが高まってきた。委員として、周りの方に総合計画のことを説明しようと思っても、そもそもどういったものをみなさん知らず、馴染みがない。市報等で周知はされているものの、大きい計画だとより市民には伝わりづらいつ感じている。身近な人に伝えることから始めて、波及し、当事者の方や関心が高い方へしっかり届けられるようにすることが我々の役目だと思っている。
- ・今年度の議論については、報告書の総括にまとめられているが、この内容が各課へどう伝わるのかが重要と思う。担当課のどういった方々にどのように伝わるのかわからないが、議論の経過も含め丁寧に伝えていただけると、私たちの意図が伝わり、連携が深まるのではないかと思う。
- ・庁内評価は成果指標を基に決定していると思うが、成果指標についてはもっと分析及び検証が必要だと思っている。

(市長)

- ・当事者にならないと関心が低いというのはそのとおり。周りの方と話す機会があれば、総合計画だけに限らず、小さなことでも市政に関することをみなさんの口からも伝えてほしい。我々も、ホームページや市報、SNS 等で情報を発信しているため、市民のみなさんが少しでも関心を高め、自ら調べていただければ情報を得られる環境は整えている。そういった行動を促していただければと思う。様々な会議で、市民の方から行政の取組について知らないことが多い、との意見を聞く。情報の発信方法については試行錯誤しているところであるが、市民の方の関心が高くならなければ、こちらが発信しても目に留まることがない。そのためにも、きっかけづくりとして、委員の皆さまにもご尽力いただきたい。
- ・成果指標についても、我々も悩んでおり、複雑にしても簡単にしても、有効な指標になるかどうかはわからない。改めて指標の設定の難しさや分析・検証の必要性を感じた。

(副市長)

- ・市民評価を全職員へ伝えるには、これまでの議論における温度感も一緒に伝えなければ真意まで伝わらない。議論の過程も含めて伝えていきたいと思う。

(委員)

- ・知っていること、知らないこともある中でこう言った場に参加できるのは自分にとって有意義な時間と思いながら参加している。総合計画でも個別計画でも、様々な分野で将来を見据えた計画をしているとわかり、自分も発信もしていきたいと思う。
- ・中学生の親として伺いたいことがある。中学生の iPad について、活用されていないのではと思っている。今後も活用していくのか。

(市長)

- ・学校ごとに活用に差があるものの、iPad は今後も使い続けていく。ご家庭でもその認識でいてほしい。どうしても先生によって知識に差があり、アドバイザーによる相談体制を整えてはいるが、教員も忙しく、新たなものに対する余裕がないように思う。新たなことを導入するからには、同時に、教員の負担を軽減する必要があり、取組を進めている。

(委員)

- ・評価委員として、1 年目は計画について知ることに必死で、今回 2 年目になり少し細かいところまで目が届くようになった。行政の取組を周知する際には、自治区を活用してほしいと思っている。自治区も頑張っていて市政について周知しているが、市がフォローすることでよりきめ細やかに届くと思う。
- ・高齢化社会が進んでいると実感しているが、元気な高齢者も多く、伝統文化や知識、知恵等たくさん持っている。このような方が将来を担う子どもたちに伝えていく機会を増やすことで、高齢者にとって生きる力にもなる。歩いて行ける身近な距離に学びあえる環境が整っていることを希望する。

(委員)

- ・評価委員になり、子どもの学校で配られる市からのチラシなど、様々なものに対し日頃から気に掛けるようになった。
- ・市外で働いており、接客をしていると県内の方でさえ半田のことを知らない方が多い。ミツカンや山車まつりと伝えてようやくわかってもらえる。県内の方が半田まで来てもらえるような、例えば「半田ってそれがあるんだ！いいね！」というものがあるといい。
- ・中学校の部活動が変わっていくというお知らせ（パンフレット）は学校から届いているが、具体的にどのように変わるかがわからず、周りの保護者の方も心配している。

(市長)

- ・保護者の目線で、これから家庭でどうすれば良いのかを周知するよう改めて教育委員会へ伝える。
- ・部活動について、地域移行という言葉が度々使われているが、我々は部活動改革

という言葉を使っている。部活動は月～金に行い、土日は本人とご家庭で考えて自由に過ごすように伝えている。「地域移行」だと地域がどうにかしなければいけない、という考えになってしまう。そうではなく、まずはご家庭で子どもたちがどうしたいのかを話しあって考えてほしい。現状のままでは土日の活動場所が少ないため、スポーツクラブや市民団体の協力により整えていく。行政だけではなく、市民の皆さまも一緒に子どもたちの部活動改革については考えてほしい。

(委員長)

- ・少し話が戻るが、半田が知られていないということについて、半田の良いところをたくさん知っている我々からすると少し歯がゆく感じる。

(委員)

- ・半田と伝えても、知多半島のどこにあるか全く知らない方が多い。知多半島を一括りで考えている方も多く、すごく田舎のイメージを持たれている。

(委員)

- ・ミツカンや新美南吉等、有名なものはあるけれど半田とリンクしていないケースが多い。山車まつりは名称が「はんだ山車まつり」のため、半田のお祭りだと覚えてもらっている。

(委員)

- ・市外へ半田をアピールするための新たな考えはあるか。

(市長)

- ・市外へのアピールとして、よく「住みやすいまち」というフレーズを使用するが、どの市町も同じように言っており、あまり響いていない。現在、半田市では「はたらく親を応援するまち」とターゲットを絞り、まずは3年間で取り組んでく。半田市の歴史と文化は近隣市町の中でも群を抜いており、魅力があるが、どのように磨いていくとより魅力が高まるのか、どのように発信すると効果的に伝わるのか、難しく思う。

(委員)

- ・県外の方へ市内を案内するときは半田運河から赤レンガまでお連れする。

(委員長)

- ・子どもも含め、市民の皆さんがどうやって自分たちのまちを紹介するのが気になる。

(市長)

・私も講演会等で半田を紹介するとき、伝えたいことがたくさんあり絞ることができず、また、半田市にしかないものは何かと考えると難しく、頭を悩ませている。

(委員)

・半田は、様々な資源を守っているコミュニティが多いのがとても良いところと思う。例えば各地区の山車組や半六邸、赤レンガなど。それらを守り、楽しんでいる方々のコミュニティがさらに大きくなり、その先に観光があれば良いと思う。

(委員長)

・まさに総合計画の将来像にもある「人がまちを育み まちが人を育む」という言葉につながる。

(副委員長)

・イギリスで ROAMEF (ロアメフ) サイクルという PDCA サイクルのようなものがあり、事前評価を行い、モニタリングした後に事務評価を行っている。半田市の庁内評価と市民評価の関係性と似ており、やはり先進的な取組だと感じた。

・市民の認知度がなかなか上がらないという話があったが、相応の調査をしなければ原因はわからないと思う。例えば、半田のことを知らないという人がいた場合、なぜ知らないのか、他に知っている市町村はどこか、その市町村をなぜ知っているのかなど、突き詰めていくとヒントが得られるのではないかと思う。こういった調査にも注力していくと良い。

(副市長)

・本日皆さんからお話を聞いて「やっぱり」と思った。「半田市ってどんなところ?」「総合計画ってどんな計画?」等よく言われている。市内高校生からも、半田市は PR がうまくないとわれ、大きな課題と捉えている。

・今回の市民評価報告をしっかりと庁内に展開し、改善を約束させていただく。本日はありがとうございました。

(終了)